

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の創造都市ネットワークで誕生した優良事例は加盟都市間で共有し、持続可能なまちづくりに役立てる。文学分野の岡山市とノートルダム清心女子大が文学の力を福祉に生か

す協働事業で試用し、1日に発刊された冊子「わたしを旅する なんじゃもんじゃブック」もその一つだ。

（山内悠記子）＝23面関連

子どもが心開く冊子に

岡山市と清心女子大協働事業



村中李衣さん

8章構成 自由に考えや絵記入

さまざまな家庭環境でつらい経験をした子どもたちが、心を開けるようサポートするワークブック。絵本など物語を通じた対話で生

みあい」を全国に先駆けて提唱した児童文学作家の村中李衣・同大元教授(67)＝山口県山陽小野田市＝が手がけた。「ふしぎなふしぎなナミダのチカラ」など計8章で構成。リスの外の人気絵本作家6人絵の「ヒミツをつめたら？」は、秘密の種をこっそり埋めると、いで1430円。

つか思いがけないものに変化すると想像を促す。自分を小さなカメに見立て10年後に甲羅の模様はどう変化するか考える草など、紙とペンで自由に考えや絵をかく趣向だ。国内の人は、作者の日本語音声やイラストと共に、日本語・英語訳付きでウクライナ・オデッサ事務所のユーチュ

村中さんは坪田譲治文学賞などの受賞歴があり、全国の病院や児童養護施設、学校などで、悲しみを抱える子どもらを対象に約40年にわたって活動した経験も反映させた。「心の置き所は自分で決めることができる」と伝えるツール」と言い、岡山市の詩が海外で評価されたのは誇らしい。来年11月に市内で開く国際会議に向けて、多様な文学活動を発信したい」と話している。

つか思いがけないものに変化すると想像を促す。自分を小さなカメに見立て10年後に甲羅の模様はどう変化するか考える草など、紙とペンで自由に考えや絵をかく趣向だ。国内の人は、作者の日本語音声やイラストと共に、日本語・英語訳付きでウクライナ・オデッサ事務所のユーチュ